

柴山前文部科学大臣とアズレー・ユネスコ事務局長との会談について (報告)



柴山前文部科学大臣は、2019年7月3日から7月5日までフランスを訪問し、G7の枠組みでは日本が議長国を務めた倉敷会合以来3年ぶりの開催となるG7教育大臣会合及びG7の枠組みで初めての開催となる教育・開発大臣会合に出席するとともに、アズレー・ユネスコ事務局長やブランケール・フランス国民教育大臣との会談を行ったほか、パリ日本人学校の視察を行った。

アズレー事務局長との会談では、教育・科学・文化の各分野における取組のほか、「世界の記憶」事業の包括的見直し等について意見交換を行った。

教育の分野では、日本が提唱するESDに関して、新たな枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGsの達成に向けて（ESD for 2030）」が2020年から開始される時期にあたるほか、科学の分野では「国連海洋科学の10年」が2021年開始されるなど節目を迎える時期にあたり、日本の知見を活かして積極的に貢献する旨、発言した。

「世界の記憶」については、友好と相互理解の促進という事業本来の趣旨・目的に貢献できるよう制度の包括的見直しを行うことが重要であるとともに、我が国としては記録物の防災に関して、日本の経験を生かした貢献を行っていく旨を伝えた。

また、柴山前大臣は、8月28日、アフリカ開発会議（TICAD 7）出席のために来日したアズレー事務局長と横浜で会談した。本会談では、「ESD for 2030」及び「教育の未来プロジェクト」への協力や「世界の記憶」事業の包括的見直し等について意見交換した。